

# JAUW 茨城支部だより 2011年度-2号

URL <http://jauw-ibaraki.org/> 2011年8月1日 社団法人 大学女性協会(JAUW)茨城支部 発行

太陽が照りつけるさなか、夾竹桃の真っ赤な花がいやがうえにも暑さを増幅させます。あっという間に真夏の気配、毎年のことですが時間の早さを思い知らされます。

酷暑の中、16名の参加で熱気あふれる第1回定例会が行われました。今回の調査研究は初めて、JAUW本部との協働調査、そこに茨城としての特性をいかに表出できるか、調査内容に対するさまざまな意見が飛び交いました。3年がかりの調査ですのでじっくりと進行していきたいと思います。

又、今年度9月定例会は公開で行います。多くの方をお誘い合わせご参加願います。

今回の大震災ではホームページやブログ、ツイッターが改めて注目されました。又、チュニジアに端を発した政治革命もツイッター等が大きく影響したニュースはまだ耳新しいことと思います。

私たちは災害や、政治、日常生活などに役立つインターネットがどのように飛躍的に進化しているのかを知り、どうやって自分の味方にするか、また、使い方によっては人を傷つける道具でもあるということをも十分認識し、新たな挑戦と見なおす機会にしたいと考えております。茨城支部のホームページも魅力的な情報発信をして、支部活動の充実を目指していきたいと思います。インターネットに触らない人もこの際、新たに挑戦する機会の第一歩として、是非ご参加いただけましたら幸いです。

今回の「茨城支部だより」は紙に起こして、お手元に届くように郵送しましたが、次号からはパソコンメール通信をご希望された会員には、支部だよりをメール配信させていただきます。

よろしくご了解のほどお願いいたします。(今高 記)

## <9月定例会のお知らせ>

### 公開講演会

### 不安解消!! もっと素敵に情報発信

ICT情報リテラシーと情報発信・利活用能力の向上を目指す”情報発信ワーキングチーム”による企画第1回です。ICTの基礎知識と最新情報に関する講話・質疑応答を通して、責任ある情報発信について考えていきます。

水戸芸術館で開催中の「CAFE in Mito 2011-かかわりの色いろ」も一緒に。街とアートのコラボレーションを楽しみましょう。



日時：2011年9月10日(土) 13:30～

場所：水戸芸術館 会議室

講師：須田裕之先生(筑波技術大学教授)

☞詳細は同封のチラシをご覧ください。

返信用はがきの同封が無い方は、8月20日までに、安宛にメール又はFAXで出欠をお知らせください。

# 「ジェンダーの視点から家庭科教育を考える（調査）」 プロジェクトチームを立ち上げます！

「支部だより 2011 年度 第 1 号 (p.6)」に、本部の上記調査の内容と支部参加のお誘いについて掲載しましたが、このたび茨城支部は、本調査への参加に名乗りをあげることとなりました。そこで、茨城支部では独自のプロジェクトチーム（以下PT）を立ち上げ、全国からみた茨城県の現状についてより深く分析していく予定です。

7月定例会において、長田会員（本部教育委員会委員長）より、「ジェンダーの視点から家庭科教育を考える（調査）」の本部経過と今後の予定についてお話を頂き、参加者の活発な議論も行われました。

定例会では、本調査の流れと茨城支部のおおよその方向性がみえた時点で時間切れとなり、さらなる内容検討については第1回PT会議以降進めて参ります。そこで、第1回会議に先立ち、本PTで共に活動して下さる方を会員の中から募集します。どうぞご興味のある方の参加をお願い致します。

おもに支部で担当する活動と日程は以下の通りです。

## 【PTのおもな活動内容（予定）】

- (2011 年度) ・ 高等学校生徒および高等学校家庭科教員へのアンケート作成、ミニ調査
  - ・ 高等学校管理職への聞き取り調査内容の作成
  - ・ 茨城県で使用されている家庭科教科書の調査・分析（茨城支部独自調査）
- (2012 年度) ・ 上記アンケートの本調査・分析
  - ・ 高等学校管理職への聞き取り調査・分析
- (2013 年度) ・ 報告書作成

ぜひ、PTメンバーに  
なってくださ〜い (\*^\_^\*)

## 第1回 会議

2011年8月22日（月）14時～16時  
（於：女性プラザ男女共同参画支援室）  
（第2回目以降は、PTメンバーの都合によっ  
て決定いたします。）



## 講演会参加リポート

JAUW 主催公開講演会（女性の地位委員会担当）

### 「90年代以降の農山村女性の地位の変化と課題」

2012年の国連CSW56のテーマ「農山村女性のエンパワーメントと貧困撲滅など」に向けて、本部主催の勉強会が、7月9日午後、四ツ谷駅前のニコラ・バレ9Fで開かれました。講師の篠崎正美さんは、(財)アジア女性交流・研究フォーラム主席研究員でJAUWの福岡支部会員でもあります。

農山村女性の人権を認め合う「家族協定」がどのように広がり実践されていったか、事例をもとに報告。しかしまだまだ現状は厳しく今後の取り組みがさらに期待されると結びました。終了後の近くのカフェでの交流では、女性農業委員の悪戦苦闘している現状や「家族協定」の内容について話が進みました。農業地域が比較的多い茨城支部では、現場の声をよく聞き、何か突破口への糸口が探れないものかと、支部ならではの協力について何ができるか考えながら帰途につきました。（城倉 記）

## 7月定例会報告「ジェンダーの視点から家庭科教育を考える」

日時：2011年7月16日 会場：つくば市民活動センター

講師：長田 JAUI 教育委員会委員長（茨城支部会員）

連日猛暑の続く7月16日（土）、つくば市市民活動センターにおいて新会員も迎えて16名の会員が集い盛会に開催されました。

初めに、今高支部長から今定例会の講師である長田先生の紹介と本部との協働研究について紹介がありました。公益法人改革に伴う一般社団法人へ移行して初めての事業を、JAUI 委員長で茨城支部の会員でもある長田先生と3年がかりで調査研究を進めていく意義とプロジェクトチームを立ち上げて取り組む決意が語られました。

その後、新会員紹介として栗栖さんから自己紹介の後、長田先生から、JAUI 本部教育委員会と支部との協働調査・研究「家庭科教育における男女平等教育の実態—生徒と教員へのアンケート調査を通して」の趣旨説明があり、本部が主体としていた教科書分析についても茨城県ではどのような教科書を使用しているかの調査研究をすることやアンケート調査についても、高校教育の現場にどのように具体的に調査依頼を図り、地域性や学校差等偏らない調査をどのように実施していったらよいかなどが真剣に語られました。県教育委員会や教師向けのアンケート原案作成については、プロジェクトチームリーダーの中島さんにお願ひし、8月22日2時から支援室で会議をすることにしました。

「家庭」についての概念についても、一般的な両親がいる家庭から、一人親家庭や性同一性の家庭も市民権を得ている実態についても言及され、家族や家庭の在り方が問われる実態調査となることが期待されます。（加藤 記）



### 感想

#### 「7月定例会に参加して」

久しぶりに大学女性協会の例会に参加させていただきました。他団体の役員を引き受けている関係で、いつも大学女性協会の行事や、例会・総会と用事が重なってしまい、失礼させていただいておりました。

久々に皆様との白熱した討論をさせていただき、刺激を受けました。私たちが10代20代の若い頃も家庭科教育の中で男女平等教育のことが問題にされていましたが、現在では労働問題でも、家庭の中における問題でも、地域社会の活動でも男女格差が大分なくなってきたのではないかと思います。15年前に北京市で開催された世界女性会議を受けて、ずいぶん各国の施策も変化があり、日本でも当時、総理府が出した男女共同参画型社会の施策もずいぶん社会に浸透して社会変革してきているのではないかと思います。

今回の調査には多忙なため、あまり協力できませんが、皆様の連携プレイで調査結果がうまくまとまり、報告されますこと心よりお祈り申し上げます。時間が取れましたら又、参加させてください。

(F.T 記)

## ＜大学女性協会 2011 全国セミナーのお知らせ＞

### 「改めて問う、『市民社会を構成する NGO 活動』とは」

JAUW は、IFUW の加盟団体として私たちに課せられている国際的連携を持つ NGO 活動と、また日常、生活する地域の中で、長年、NGO 団体の一つとして活動し、地域の市民社会に貢献してきた実績もあります。それらの活動を改めて見つめ、各支部や個人の役割と責任を考えたとい企画し、開催されます。茨城支部 11 月定例会です。城倉会員がパネラーとして発言しますので是非ご出席ください。お待ちしております。

日程	2011 年 10 月 15 日（土）～16 日（日）		
会場	独立行政法人 国立女性教育会館（又エック） 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 ☎0493-62-6711		
プログラム	10/15	13:00～	開会式、支部・委員会報告、懇親会
	10/16	9:00～	基調講演 大西珠枝氏（放送大学学園理事）
		10:30～	パネルディスカッション
		13:30～	全体まとめ（16:00 閉会）

## JAUW 本部レポート 東日本大震災災害地支援事業特設委員会 報告

□■ 高校生（保護者を亡くされた方優先）に奨学金を支給します ■□

長期的な教育支援を目的とした災害地支援のための特設委員会（理事 4 名、前理事 1 名）が 6 月より準備をスタート、2011 年 7 月 3 日付けで設置されました。高田委員長（JAUW 副会長）のもとに委員会規程を作成し、会員他からの募金をどのように役立てていくかについて検討、現地の宮城県教育委員会への訪問、チャリティーコンサートの企画、会場の下見など精力的な動きを見せています。

被害地支援に当初 100 万円を拠出しましたが、その後も継続して集められた募金（7 月現在 約 300 万円）を基金として、今後継続して募金活動を行って総額約 500 万円の事業とし、被災地で保護者を失った高校生（女子を優先する）を対象とした奨学金を創設することになりました。募集はすでに開始、宮城県の教育委員会をとおして今年度分から進められており、本部にも問い合わせが来ています。選考会は 9 月 4 日に実施の予定です。

当初は保護者をなくした遺児・孤児のみを対象とする予定でしたが、現地の学校関係者の意見を取り入れ、保護者が生存されていても経済的に困窮しているご家庭にも範囲を広め、また、成績優秀を最優先の基準とするのではなく、勉学意欲があればとの生き抜くための経済援助優先との立場をとり、さらに進学（専門学校含む）を希望する者には高校卒業後 2 年間まで支給されることとしています。今年度は、高校 1 年から 3 年まで各 2 名ずつ計 6 名の高校生に、月額 1 万円が支給される予定です。目下、基金の拡大をめざし、チャリティーコンサートの開催などを企画準備中です。皆様のご協力をお願い致します。

★チャリティーコンサート（チェロとピアノ演奏） 追ってチラシが配布される予定です。

日時：2011 年 12 月 17 日（土） 会場：「求道会館」文京区本郷 6 丁目（文化財指定建物、南北線東大前駅下車 5 分、丸の内線本郷三丁目駅下車 15 分、） 詳細は案内チラシを。



## 茨城県女性団体リーダー等研修交流会に参加して

研修会は2011年 7月28日(木)茨城県庁9階講堂で、講師に前千葉県知事・元参議院議員の堂本暁子氏を向かえ開催されました。演題は「これからの男女共同参画－災害と復興を契機として－」、約一時間半に亘る講演でした。

最初に堂本氏自身の制作によるパワーポイントで、茨城県内・水戸市内の罹災状況が写しだされ、お見舞いの言葉を頂きました。堂本氏は、「行政の中では言えなかった」本音の部分も含めての講演にしたい、との言葉で開始しました。注目した事は、47都道府県の知事で「D.V.や防災」に目を向けている知事が皆無に近かったとの報告でした。

仙台市若林区視察の折、避難所は基本的には住民の自主管理で運営されているにもかかわらず、意志決定の場に女性が居ない現状報告に愕然としました。これだけ全国的に男女共同参画が政策に掲げられ国民が一回は耳・目にしてきたであろう事が現場では生かされていなかった事実にショックを受けました。堂本氏の女性国会議員と協力しての政府への要望、男女共同参画の視点を持った委員、とりわけ女性委員をせめて30%にとの意見は全女性の願いであると思いました。

茨城県の災害対策復興計画の中に、ジェンダーが入っていることを知らされました(県民として無関心でした)。又、仙台市の奥山恵美子市長の「人の命を救ったものはライフラインではなく、家族や隣近所との絆です」との言葉に感銘を受けました。堂本氏の「日本人は自然に対して畏敬の念を抱き、日本人の文化として受け継がれてきたものを文明社会の中で置き忘れてきたのではないだろうか、災害を受け人間の真の豊かさを問われている現在、人との絆、自然との調和が災害に強い社会を作る」という理念に納得しました。最後に喜寿を超えた堂本氏のパワフルな行動に拍手喝采!(幡谷 記)

### ◆新入会員紹介◆

### “林住期”ですが

私は、これまで人々の人権が認められ、平和の内に生活できる社会を夢見て進んできた。でも男性に任せてきた世の中は、人類滅亡の危機に瀕している。それを感知した女性たちが1975年に国際女性年の10年を設定し、多くの女性たちが同調した。

女性が教育を通じて力をつけ、政治・経済などに平等に参加する事で、女性の視点が反映され、人類が抱えている諸問題の有効な対応に繋がって行くはずであるが、どうも日本は不思議なことに、教育水準が高い割に、各界への女性の参加・参画率が低い。どこに原因があるのか、私の腹の内にずっと解明できずにくすぶっている課題だ(他国の女性も気にしているのでは)。

そんな私に、今高支部長から声をかけられた。入会するなんておこがましい事だ。この年になって、世の中の効率化についていけない私であることは、自分でもよく承知している。でも、「東北がんばれ」が「恵子がんばれ」と重なって聞こえてくるのだ。そして7月16日の定例会に、新会員として参加した。

我が家は、老男老女の家庭である。この林住期に向かい合う私たちは戸惑うばかりである。今、当会が理想として描くような家庭科の教科書を学んできていたら、こんなにストレスをお互い感じなくて済んだと思う。教育の力はすごい。現代、特に多様な社会の中で育っていく学生達にしっかりと家庭科教育の中でも男女平等に関わる事を教える事が、穏やかな林住期を送り、平和な社会へ繋がることになる。(栗栖 記)

～☆～☆ 募金及び支援物資のご協力をありがとうございました ☆～☆～

## —茨城キリスト教大学学長より礼状が届きました— 募金 85,405 円

支部だより 1号で、中島会員からの義捐金報告を掲載しましたとおり、4月30日支部総会で集められた募金 85405 円を、茨城キリスト教大学の被災された学生への支援としてお渡ししましたところ、小松美穂子学長よりお礼状が届きました。ご報告申し上げます。

茨城キリスト教大学には、福島県や北茨城市、高萩市からの通学者も多く、深刻な被害を受けた学生が数十名在籍しているとのことでした。

## —被災地のいま（陸前高田市）— 支援物資

「陸前高田市の妹夫婦が、東日本大震災で被災し不自由な避難所生活を送っている、冬物は十分に足りているが今後は夏物の物資が必要だ」と、ガールスカウトの山口さんが茨城県女性団体連盟の会合で呼びかけたのを皮切りに、各団体が協力し、支援物資を募ってきました。茨城支部では、総会に支援物資を持ち寄って頂きましたが、皆さまにはご協力をありがとうございました。

その後、直接届けたいとピンポイントの支援を心掛けている山口さんが現地に持参したり、妹様宛に宅急便で送ったりしていますが、大変喜ばれているとのことでした。現在、妹さんご夫婦が身を寄せていた避難所の方々は7月11日に仮設住宅（6畳・4.5畳・キッチン、家電製品付）に入居することができ、1件あたり50万円の支援金も支給され、大分落ち着いてこられたとのことでした。

仮設住宅に移られた皆さんは、自分たちよりも福島の方々の支援をお願いしたい、また、悪条件の中を献身的に動いてくれているボランティアの方々への手立てもお願いしたいと話したりしているそうです。山口さんの妹さんはソロプチミストの元会長をされていたこともあり、常に前向きで、避難所生活当時はリーダー的な動きをし、避難所の方々の精神的な支えとなっていました。山口さんは、お見舞いに伺ったご自分が、却って力をもらって帰ってくるくらいだと語っています。

陸前高田市には日本百景のひとつであった7万本の松並木がありましたが、今回の震災ですべて流されました。妹さんは、これからは桜の山にしていきたいとの希望を語っているそうです。（城倉 記）

## 支部だよりなどの送付方法を変更します！

通信費の削減などを目的に、次回からの支部だより配布と通信連絡方法について以下のような方法の実施をスタート致します。どうぞご協力をお願い致します。

総会や定例会などの出欠の有無、案内チラシも以下の3通りで行います。

- ① メールで配信する（出欠の返事もメールで行う。ハガキなし） 担当：安
- ② FAXで送信する（出欠の返事もFAXで行う。ハガキなし） 担当：加藤
- ③ 郵送する （出欠のハガキを同封する） 担当：加藤

以上の連絡方法について、まだ「希望する連絡・配信方法」のご連絡を頂いていない方は、今号、返信ハガキを同封しました。定例会出欠と共に「希望する連絡・配信方法」をご回答願います。

**編集後記** 天の恵みのような束の間の涼しい日に生き返りましたが、猛暑の日々の再来です。水分と睡眠がキーワードの毎日、皆様にはどうぞ無理のないようくれぐれもご自愛ください。

茨城県女性団体連盟主催「ハーモニーフライトいばらき 2011」の国内研修が、7/23 から 24 にかけて女性プラザで開催され、公募で採用された 14 名の研修員らが熱心に研修に取り組みました。24 日午後の講師は、元 JAUW 会長田中様。CSW 日本代表団顧問や JAWW（日本女性監視機構）代表などのお立場からの興味深いご講義を展開して頂きました。国内研修と国外研修（ノル